

クランクベイトの自作11 - スイミング テスト -

1 はじめに

今回はリップの作製と接着について掲載しました。リップを付ければ自作ルアーの完成です。完成したルアーを浴槽で泳がせてみました。

2 自作ルアーのスイミング テスト

(1) 水中への投入

スプリットリング2個とフックを付けて浴槽に投入しました。

○リップのないものにチューニングシンカー4mm0.06gを付けて投入です。予定通り、沈んでいきました。

○リップ付きは、リップのないものに比べ、沈下速度は遅かったです。リップが水への抵抗となるからでしょう。

○リップのないものから、チューニングシンカー4mm0.06gを外して投入しました。以前の試作品では浮いていましたが、今回は沈んでしまいました。

なぜ、シンカーなしでも沈んだのでしょうか。以前の試作品では、塗装前(下地づくりまで)でのテストでした。今回は塗装を終えてのテストでした。塗料の分、重くなったのではないかと考えられます。塗料の重さが0.06g以上あったということでしょう。

落下速度はシンカー付きのものとはほとんど変わりませんでした。リップがないため、水からの抵抗が少ないのだと考えられます。

○以前の試作品(鉛球6mm2個)は沈下速度が一番速かったです。

(2) スイミング テスト

ルアーに糸を付けて浴槽で引いてみました。泳ぎは意に反したものとなりました。

○リップが下に付いているものは、糸を引くと浮いてきました。予想はリップが下にあるものは潜っていくと書いていました。お尻を振って泳ぐということもありませんでした。

○リップが上に付いているものは、糸を引いても浮いてきませんでした。予想はリップが上にあるものは浮いてくると書いていました。お尻を振って泳ぐということもありませんでした。

○リップなし、シンカーなしのものは、ゆっくり引くと一定層を泳いでいました。底まで沈めてからゆっくり引いてくると、底にすれることなく、一定層を泳いでいました。お尻も若干振りながら泳いでいました。

<結論>

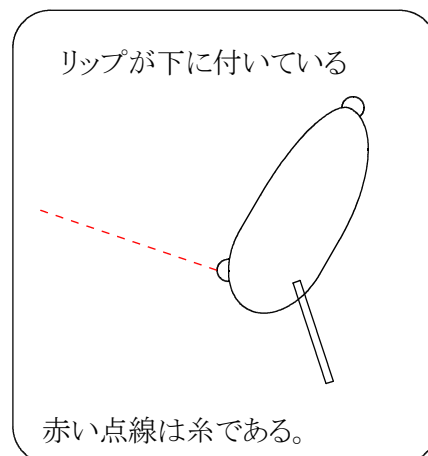
リップなし、シンカーなしのルアーが自分の作りたいルアーが一番近かった。

(3) スイミング テストを終えての考察

○リップが下に付いているルアーについて

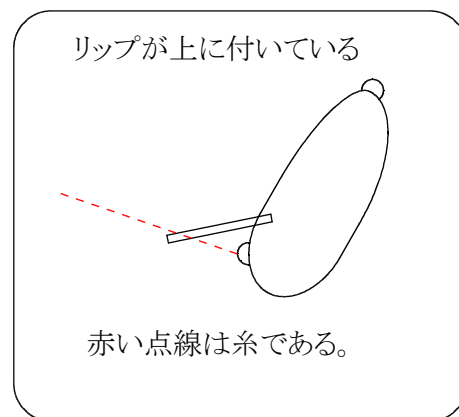
リップが下に付いているルアーを引いてくると浮いてきたのは、ルアーの水中姿勢がほぼ垂直であることによると考えられます。

作図で考えてみました。右図はリップが下についているルアーの水中姿勢です。リップが付いている角度から、リップは尻と同じような役割をするのではないかと考えられます。これによりルアーは上の方に浮き上がっていきます。



○リップが上に付いているルアーについて

同様に作図で考えてみました。糸がリップと接触していることとなります。泳ぎがどうかという以前に好ましくないと考えます。



○リップの付け方について、その大きさや形、付ける位置、付ける角度についてもっと検討する必要があります。

3 終わりに

現状では、リップのないルアーが、自分の求めている泳ぎ方に一番近いことから、これで実釣してみようと思います。リップのないもので釣れるなら、手間が省けていいかもしれません。

次は実釣報告です。